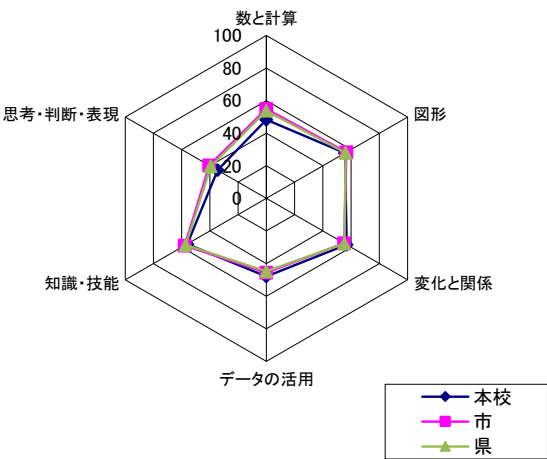


宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.3	54.9	53.7
	図形	55.6	56.6	56.1
	変化と関係	56.8	55.1	55.2
	データの活用	47.9	45.5	44.8
観点	知識・技能	56.1	57.8	57.2
	思考・判断・表現	34.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均を5.4ポイント下回っている。 ●「除法の性質を利用した計算の工夫について説明する」問題に関しては、正答率が3%と圧倒的に低く、無回答率も30%と一番高い数値である。	・除法の性質についての理解というよりも説明をするという難しさがあるため、普段の授業から計算の仕方や考え方を説明させる授業を取り入れていく。
図形	平均正答率は、県の平均と同程度である。 ●立体の辺と面の位置関係を理解しているかについての正答率が市では7ポイント、県では3ポイント下回っている。	・立体の図形は、作図して自分たちで作るという活動はしている。位置関係については、イメージしやすいように具体物を用いたり、デジタル教材を活用したりすることにより、図形の性質を捉えられるようにする。
変化と関係	平均正答率が、県の平均と同程度である。 ○4問中3問は県と市の正答率を上回っている。	・割合のしくみについては、正答率が低く、説明の文中の□に当てはまる数字を考えるという意味では、説明が苦手なところと似ているので、自分の考えを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れていく。
データの活用	平均正答率が、県の平均を3.1ポイント上回っている。 ●16－3の「グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明することができる」に関しても説明するという答え方では、正答率が6.1%と低い。	・数と計算のと同じく、自分の考えや解き方を図や式、言葉などで説明するということに困難が見られる。授業の中でペア学習やグループ学習などで少しずつ説明できるような場面を設定する必要がある。